

こんにちは。鈴木 拓です。

「総合実用英文法講座」をご利用いただきありがとうございます。

本講座のサンプルをご覧いただきありがとうございます。

今号は問題の解答と解説になります。

■1. 社長に対してあそこで説明している女性は私の上司です。

(to/boss/lady/president/the/explain/the/be)

S：社長に対してあそこで説明している女性

V：です

Sは本体のthe lady 「女性」に

「社長に対してあそこで説明している」を入れます。

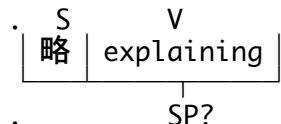
進行形であり、2語以上です。

1語だと、置ける条件が限られていますが、

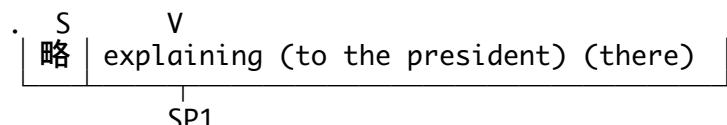
2語以上だと、問題なく置けます。

S：略

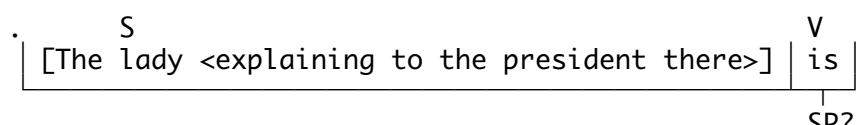
V：説明している



第1文型で、「社長に対して」と「あそこで」を入れて、現在分詞が完成。
この副詞は動かさない方が自然です。

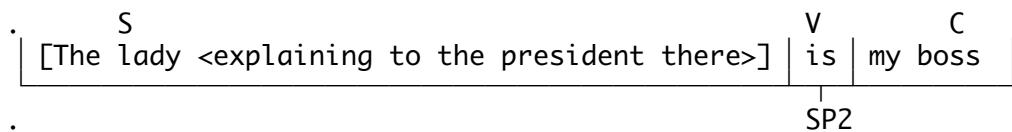


主文も↓まで完成。



第2文型

C：私の上司

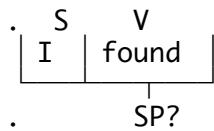


これで完成となります。

【答え】 The lady explaining to the president there is my boss.

■ 2. 私は昨日、興味深い映像を見つけて、それを私の同僚たちに送りました
 【過去形】 (send/clip/a/find/interest/yesterday/colleague/to)

S: 私
 V: 見つけた

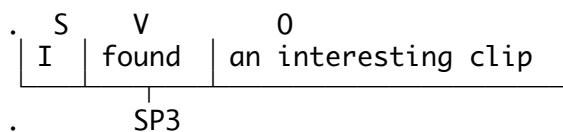


第3文型

0: 興味深い映像

「興味深い」は、interest 「興味を持たせる」を現在分詞にすることで表せます。

1語の現在分詞になりますが、感情動詞の分詞は、ネイティヴはhappyのように、元々形容詞と言うように見るので、前につけて全く問題ありません。

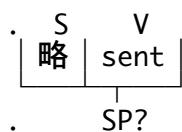


「昨日」を入れて、前半の文が完成。



続いて、andを使って、後半を作って行きます。

S: 略 (前半と同じため)
 V: 送りました



第3文型

0: それ

S	V	0
略	sent	it

SP3

最後に「私の同僚たちに」を入れて完成です。

S	V	0
略	sent	it (to my colleagues)

SP3

【答え】 I found an interesting clip yesterday and sent it to my colleagues.

■3. 鳴いている犬が昨日、私が地理の試験のために勉強している時に
邪魔をしました【過去形】
(study/dog/for/bark/the/the/exam/disturb/geography/yesterday)

S: 鳴いている犬

V: 邪魔をしました

Sは、dog 「犬」 に、「鳴いている」を付けます。
進行形であり、現在分詞で表現するところ。

ところが、今回は1語。1語で前につけられるのは制約があります。

しかし、今回はbarking dogと、「よく使われる組み合わせ」であり、
使用可能です。

barkingは↓の構造です。

S	V
略	barking

SP1

主文も↓まで完成です。

S	V
The barking dog	disturbed

SP?

第3文型

0: 私

S	V	0
The barking dog	disturbed	me

SP3

「昨日」を入れて、主文が完成。

S	V	O
The barking dog	disturbed	me (yesterday)
SP3		

続いて、when節を作つて行きます。

S: 私
V: 勉強していた

S	V
I	was studying
SP?	

第1文型で、「地理の試験のために」を入れてwhen節が完成。

S	V
I	was studying (for the geography exam)
SP1	

そして、文全体も完成となります。

S	V	O
The barking dog	disturbed	me (yesterday) (when I was studying
SP3		

for the geography exam)

【答え】 The barking dog disturbed me yesterday when I was studying for the geography exam.

■4. このワクワクさせるチームは奇跡と見られている勝利をもぎ取った。
【過去形】 (a/a/team/miracle/victory/excite/see/grab/as)

S: このワクワクさせるチーム
V: もぎ取った

「ワクワクさせる」は、exciteの現在分詞exciting。

感情動詞の分詞はネイティヴは形容詞と見るので、
前につけて全く問題ありません。

S	V
This exciting team	grabbed
SP?	

第3文型

0 : 奇跡と見られている勝利

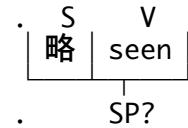
本体のvictory 「勝利」 に 「奇跡と見られている」 をつけます。

受動態の意味なので、過去分詞で表現。

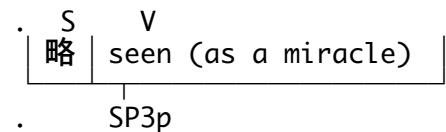
1語だと制約がありますが、今回は2語以上なので、問題なく使えます。

S : 略

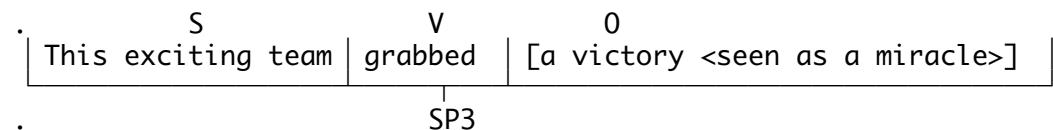
V : 見られている



第3文型の受動態で、「奇跡と」という副詞を入れて、分詞が完成です。



そして、文全体も完成となります。



【答え】This exciting team grabbed a victory seen as a miracle.

■5. イライラしている生徒たちを落ち着かせるのは難しいです。

(down/tough/irritate/be/calm/student)

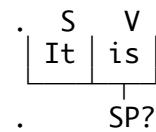
S : イライラしている生徒たちを落ち着かせるの

V : です

Sが文になっています。

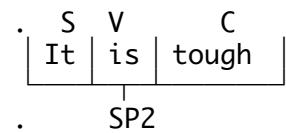
この場合、it is toかit is that。

助動詞も時制もないで、it is toを使います。



第2文型

C : 難しい



続いて、不定詞を作ります。

S: 略

V: 落ち着かせる

•

S	V
略	to calm down
SP?	

第3文型

0: イライラしている生徒たち

「イライラしている」は、 irritate 「イライラさせる」の過去分詞。

受動態で、「イライラさせられている→イライラしている」です。

ネイティヴのように、形容詞扱いして前につけます。

•

S	V	0
略	to calm down	irritated students
SP3		

これで不定詞が完成で、文全体も完成となります。

•

S	V	C
It	is	tough {to calm down irritated students}
SP2		

【答え】 It is tough to calm down irritated students.

■6. ケビンは骨折した指でプレーしている。
(a/play/break/Kevin/with/finger)

S: ケビン

V: プレーしている

•

S	V
Kevin	is playing
SP?	

第1文型で、「骨折した指で」を入れます。

「骨折する」は、英語ではbreakで表現します。
指は「骨折させられた」方なので、形容詞でつけるなら、
過去分詞のbrokenです。

そして、今回は「骨折して、今も骨折状態」という状態の意味。
そして、brokenはその意味で、名詞の前に1語で置いて使える分詞
でした。

なので、前に置いて使います。

- .

S	V
略	broken

SP3p
- .

S	V
Kevin	is playing (with a broken finger)

SP1

これで完成となります。

【答え】 Kevin is playing with a broken finger.

■7. 残念ながら、この青色の古いコンピューターは壊れていますよ。
(computer/blue/unfortunately/old/break)

最初に「残念ながら」を入れてしまいます。

- .

(Unfortunately)	S	V
-----------------	---	---

SP?

S: この青色の古いコンピューター

V: 壊れています

これは、breakを受動態にして表現することも考えられます。

しかし、今回は「壊れた状態である」ということを言いたい。

その場合、ネイティブは受動態ではなく、brokenを形容詞のように見て、Cに入れて表現するので、今回はその形で表現して行きます。

- .

(Unfortunately), this blue old computer	S	V
		is

SP?

第2文型

C: 壊れている

- .

(Unfortunately), this blue old computer	S	V	C
		is	broken

SP2

これで完成となります。

【答え】 Unfortunately, this blue old computer is broken.

■8. 私はこのイライラする用事をやらなくて良いので、ホッとしています。
(annoy/relieve/do/chore)

S: 私
V: です

- .

S	V
I	am

SP?

第2文型

C: ホッと

これはrelieve「ホッとさせる」の受動態で表現できるのですが、
感情動詞の分詞はネイティヴは形容詞として見ます。

なので、relievedを形容詞扱いして入れます。

- .

S	V	C
I	am	relieved

SP2

続いて「このイライラする用事をやらなくて良いので」を入れます。

relievedは形容詞として見るので、
「S be動詞 感情形容詞」という語順をしています。

その場合、後ろにthat節をつけるか、感情用法として不定詞をつけられます。

今回は「～しなくて良い」という助動詞があるので、that節を作ります。

S: 私
V: やらなくて良い

- .

S	V
I	don't have to do

SP?

第3文型

0: このイライラする用事

これはannoy「イライラさせる」の現在分詞で表現できます。

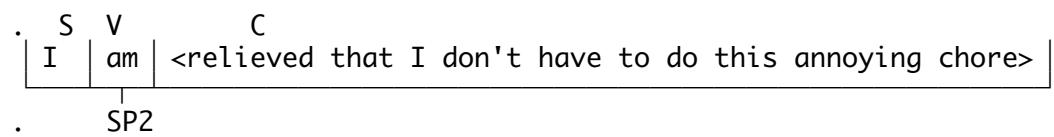
感情動詞の分詞はネイティヴは形容詞扱いなので、
普通に、名詞の前につけて使います。

- .

S	V	0
I	don't have to do	this annoying chore

SP3

これでthat節が完成で、文全体も完成です。



【答え】 I am relieved that I don't have to do this annoying chore.

第26号の内容は以上となります。

今後も英語学習のお役に立てればと思っておりますので、
何卒よろしくお願ひいたします。